



### 有松まちづくりの会役員会(7月26日)

有松で町並み保存運動が始まって40年余り、その間に重要伝統的建造物群保存地区に選定され、日本遺産に認定されました。有松の今後を話し合う機会を9月役員会で持つことになり、役員各自「未来の有松について」考えてくることになりました。

### 「有松おさんぽきっぷ」終了(7月18日)

道を彩るギボウシ

約2ヶ月にわたり販売されてきましたが、絞りまつりの中止などで成果を十分に発揮できませんでした。でも、有松に関心を寄せる方には必需品。最終日の18日も7名グループ等があないびとの会の案内で有松散策。



### 有松絞り浴衣で対応 碧海信用金庫有松支店

日頃から地元有松に密着して営業されているからでしょう、有松ゆかたまつり(7/2~4)に合わせて有松絞りの浴衣で対応されている職員の方が見られました。これまでも絞りまつりの時などに浴衣姿を拝見することがありましたが、今回は男性職員も浴衣で・・・いつもは落ち着いた支店内もこの日ばかりははなやいだ雰囲気になっていました。



### 知ってますか？ 駅前広場は絞り博物館

#### ③ エレベーター棟と舗装パターン・ボラード(車止め)

デッキに設置されているエレベーター棟の壁面には、有松絞り模様をかたどったアルミ鋳物パネルが設置され、エレベーター棟に重厚感を与えています。他方、バス乗り場付近の舗装材を見ると、有松絞り模様の柄が規則性を持ってブロックにはめ込まれています。

また、歩道と車道の間に配置されたボラード(車止め)も、とても有松らしいものとなっています。糸で布を巻き上げたときにできる形にされているのです。

有松絞りの染色後の平面模様だけでなく、製作途中にできる立体的造形をそのままデザインに取り入れています。(完)

参考資料：「藍流」



有松絞り模様



唐松絞り

## 有松ゆかたまつり開催(7月2日～4日) 主催:有松ゆかたまつり実行委員会

コロナ禍で絞りまつりは2年連続中止となり、有松の町から活気が失われつつありました。そんな町を元気づけようと企画されたのが有松ゆかたまつり。梅雨時期で不安もありましたが、3日間雨に降られることもさほどなく多くの人出が見られました。建物公開をしている岡家住宅には3日(土)だけで400人近くの見学者が訪れていました。市内県内からがほとんどのようです。

幼いお子さん連れが目につきました。「浴衣を着る機会がなくて」と浴衣姿の方も大変多かったです。あちこちに吊してある絞りのタペストリーが雰囲気を盛り上げていました。駐車場のスペースにはキッチンカーが並び、飲食を求める人々の列ができていました。

様々なイベントが行われていました。「町並みツアー」では、1日4回程お客さんの好みに応じて50分程のご案内。「絞り体験」では雪花絞りが行われ、「できた」の音が響いていました。「着付け体験撮影会」は大人の参加が多かったようです。「木目込み人形ストラップワークショップ」会場の山車会館には真剣に取り組む老若男女の姿が・・・



上:絞り体験/下:町並みツアー

ゆかた着付け体験撮影会/木目込み人形ストラップWS

〈工房めぐり〉絞りの産地であることを広く知ってほしいと2日と4日に合計4回実施されました。1時間半かけて3箇所(写真左から:蔵工房・張文・早恒染色)を廻りました。「蔵工房」では嵐絞りと天然の藍染について説明を聞きながら見学しました。「張文」では糸を抜き縮んだ布に蒸気を当て伸ばす湯のし作業を、「早恒染色」では化学染料で染めた後の水洗いの工程をやはり解説付きで見学しました。



## 嵐絞り・本藍染ワークショップ始まる（6月26日）

有松の染織の家に生まれ、絞り作家として有松で作品を作り続けてきた早川嘉英氏は、自身が復活させた嵐絞りや江戸時代から続く天然灰汁発酵建てによる藍染を学ぶ教室を開きました。絞りを次世代に繋げるためのもので、5年程かけて職人の育成を目指すとのことです。

今回見学させていただいたワークショップはこの企画の第1弾で、広く絞りや藍染めに興味を持ってもらおうというもの。天然の藍染めによるTシャツ作りが行われていました。

受講生は棚橋邸で絞りの歴史や藍染についての講義を受け、のち早川氏の工房「蔵工房」に移動して、嵐絞りの制作現場を見学しながらその技法についての説明を受けていました。白地のTシャツを各自思い思いに染めていきました。

第1弾は7月24日までの毎土曜日(17日除く)、1日2回行われました。終了後は、第2弾「嵐絞りや藍染の専門的知識を学ぶ」、第3弾「嵐絞りや染色をビジネスとしていく」が予定されています。早川氏の意気込みが言葉の端々に感じられました。「絞りは時代と共に変化する。時代に合わせたものを作らなくてはならない」と仰っていました。



棚橋邸での講義



蔵工房での染色体験



## 講座「有松を学ぶ」(6月30日)

最終回は、有松の今後を考えるよい機会となりました。豊富なデータに基づき、観光という切り口から、有松を「本物に出会えるまち」にしたいと熱く語っていました。

### 「第6回 もっと知りたい有松の魅力」

桜花学園大学教授 根尾文彦氏

大学で観光を専門に教えている根尾先生、「大好きな有松が将来このようなまちになって欲しい」との願いを込めてお話をして下さいました。

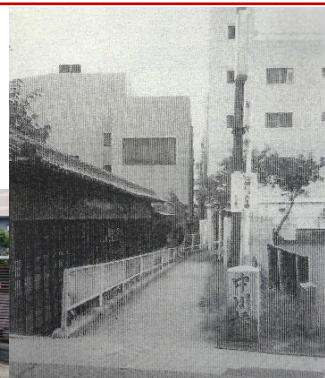
今日、検索すれば観光地の情報は簡単に手に入れることができます。行ってみたいと思ってもらうには、魅力ある地域にすることが欠かせません。地域ブランドを作ることが必要です。有松には、絞り・町並み・山車の3つの宝があります。それら本物の宝に出会えるような仕掛けが必要です。近年、体験型観光が広まってきています。心に残る体験をすることでその地域への愛着を深め、リピーターになってくれます。量の観光から質の観光へ、ということです。

具体的にどうしたらいいのか、一例としてボランティアガイドの場合が紹介されました。料金を高くしてもより質の高いご案内をするようにすれば、お客さんの満足度は上がります。観光に高付加価値を付けようということ。通り一遍の町並み案内だけでなく、東海道を離れた小路散策やお客さんのニーズに合わせた散策など体験プランの充実を図ることのようです。



## 懐かしの写真

中川橋の親柱がある山与遊歩道は有松駅と東海道を結び、多くの人が行き交っています。中濱商店がかつて絞り商山田与吉郎の屋敷だったことに因み命名されました。区画整理事業の一環として平成24年(2012)に開通。以前は細く北にまっすぐマンションやスーパーの横を通って駅に抜ける道でしたが、整備に当たり2m程石垣と塀が屋敷内部に移設されました。今も昔も便利な道です。(写真右は平成11年頃)

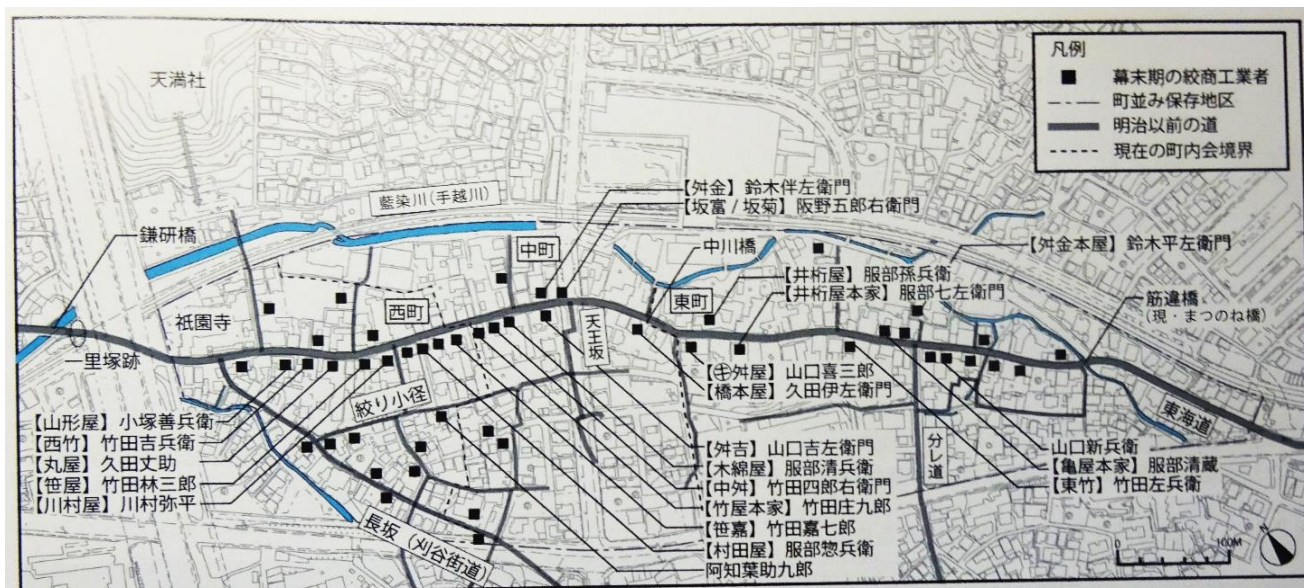


## 町並み案内で受けた質問から ②

有松あないびとの会 伊藤 総俊

### 「Q2 どうして東海道の南側に古い絞り屋さんが多いのですか？」

天然の藍染は日差しを嫌います。このことは町の建物の立地にも現われています。東海道を歩いていると、南側に古い絞り商が多く残っていることに気づくでしょう。竹田家住宅や岡家住宅・小塚家住宅など有形文化財に指定されている建物も多くあります。愛知県有形文化財の井桁屋さんは商売に不利な北側に建てられています。元々は街道を挟んで南側にある大井桁屋(今の棚橋家住宅)の分家なので北側には敷地が確保できなかったのかもしれませんが。



近世有松の町並みと幕末の絞商工業者の分布：「有松志ぼり」より

## 催事・行事の予定

- 8月 7日(土) 10:00 早川嘉英の藍染ワークショップ 棚橋邸・蔵工房 8/14まで毎週土曜日開催
- 8月 7日(土) 17:00 「絞」・「瓦」 灯りストリートin有松 有松の古い町並み 11/14まで毎日開催
- 8月16日(月) 18:00 有松町並み相談会 コミセン
- 8月23日(月) 10:00 国際芸術祭「あいち2022」

片岡芸術監督による説明会 絞会館

- 8月28日(土) 13:00 早川嘉英の藍染ワークショップ 棚橋邸・蔵工房

発行者:竹田嘉兵衛(有松まちづくりの会 会長)  
編集者:加藤 一成(有松まちづくりの会 広報部員)

T・F 052-623-1676 090-4163-2671

E-mail katoisse@mc.ccnw.ne.jp



有松まちづくりの会は、ホームページを公開してます。

有松のまち

検索